

狂  
哥  
本

#10

Hokusan

狂  
哥  
本

えののへんまのあせんにあまをたふし  
 山崎の翁れいしと書し来し一様  
 急いそきじのもしれあまを  
 し指あからぬあまを  
 雪野白し  
 山川のこゝろあまを  
 少あまを  
 一も老の歌くし例のす  
 毛のせんし  
 し  
 もく  
 新  
 ぬれし  
 石舟のねの  
 此  
 え  
 世  
 寸  
 の



東  
山  
水  
堂

常陸 下館 不二見連 板谷棟成

春とれハ袋小虎此色をいして富士のけり此のやうなる事  
成蹊舎枝也

春とれハ袋小虎此色をいして富士のけり此のやうなる事  
民家軒貫

春とれハ袋小虎此色をいして富士のけり此のやうなる事  
松元亭繁樹

春とれハ袋小虎此色をいして富士のけり此のやうなる事  
西陳舎一村

春とれハ袋小虎此色をいして富士のけり此のやうなる事  
谷嶋亭浦人

春とれハ袋小虎此色をいして富士のけり此のやうなる事  
奈良花住

春とれハ袋小虎此色をいして富士のけり此のやうなる事  
浪風於左丸

春とれハ袋小虎此色をいして富士のけり此のやうなる事  
錐美津女

春とれハ袋小虎此色をいして富士のけり此のやうなる事  
矢立薄墨

春とれハ袋小虎此色をいして富士のけり此のやうなる事  
嶋田真毛女

春とれハ袋小虎此色をいして富士のけり此のやうなる事  
富州生達

春とれハ袋小虎此色をいして富士のけり此のやうなる事  
古山人

春とれハ袋小虎此色をいして富士のけり此のやうなる事  
八幡老補禮

春とれハ袋小虎此色をいして富士のけり此のやうなる事  
田柳舎緑

春とれハ袋小虎此色をいして富士のけり此のやうなる事  
鳩禮舎三枝

春とれハ袋小虎此色をいして富士のけり此のやうなる事  
沈み小龍れはとてあめちもきく城の秋ふとる

櫻川亭近樹

○ 昔も此河にやハハハ門口よあけ柳枝のひとつり  
荒川亭貴達

きれ字より耳よとほろハ物根路の初音も系れも音の声  
○ 武藏 神奈川 不二見連 笹林堂茂

梅柳地よりひも折入妻小花とも見せて君ハぬるはれ  
浪 宋 女

始々あもめて産此川窓やかうりとかも系れもつさ  
三巴窓鈴丸

個よあさる地ハそれよけしきけん産此柳の系れよきよ  
金川堂亀丸

暮れひも近れを梅此ほころひて白ひわろの音も神坂  
栖原亭重丸

小船やとるに咲たる梅の音風おほほこれをもりのき  
○ 常陸 笠間 不二見連 不ろ軒跡頼

去るより今船ハ格別を系よあも産も暮れも初く  
○ 下野 那須 全 氣延友行

あわい今船と去るよの境もあうてあ代のはる音も波  
舎樂齋口成

小里もぬれ暮ると言れ争とひきき梅よきかきくひす  
名葉 三徳

あしたる暮れ白地よもぬれいもあうらてそえゆるあま  
長生家住

あわと波やまく井み系うりあ風より産も喜柳のいと  
寶業亭鳴人

小徳れあもるあけえ産もせふつわのひるも喜柳れ枝  
○ 全 佐久山 不二見連 梅枝花麻呂

そとよ産の衣きとるめ々々のそれきの暮れやうも  
鱗哥白麻呂

船ハ帆柱あつても信なも産此産とひけれ海原  
膝系哥膺

々あうりハなる福とやめんもつ暮れあうたもやハあれ鳴

馬足亭繁岐

あかすきハ産小歌船もろあひのやくれえゆい海つ

○ 下總 結城 不二見連 淀川 細彦

子日とて娘子のねとる代のけて根引よあさるまれ藤原

絆屋 安染

ま柳の風さしき系やいせし海子産とちせてありさげのあや

○ 常陸 府中 不二見連 一秀 齊貫良

散花とてみろやうおれそまろこ二人よあさる志がれお神

全 筑波 全 葉山 芝住

いろいあさるん地よ鳴声いさくもてかきしお船の常

○ 下妻 全 梅香亭 沼住

常陸の夷れ船のお場よりととと船と出と常れ声

青松菴 春人

花よ目のくさひおるとも吹風よとろつひれはむまのかり

○ 陸奥 岩城 不二見連 中露菴 道遠

お船やあか船とておの船とてきされ船よ産いさなり

○ 信濃 軽井澤 全 薄井 麓人

大名も花よことれてまろあふつりこめされし常れ梅の香

下野 鳥山 常陸 帶長

ま系とハ妹もまきてつとと船のおもひさくこよれ日おと

紙 則 蒲

まあふ人めもるあもあきてまろつ柳よ地といはく

久保 裏住

あさる〜〜羽色とてあさる系とていふ〜〜ふ〜〜つら〜

阿古木 浦住

る信てゆい〜〜とてあさるあ子のまお船〜〜とてはま〜

○ 下總 佐原 北總菴 揖取

つと〜〜の船とぬれとまろあつとあおれ信い〜〜たてりなり

全 笹川 夢 告 成

ふとあめ〜〜桶の〜〜あゆりか〜〜つら〜〜つら〜〜あお

○ 全 佐倉 櫻下堂 壽屋

〜〜あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ〜



上野 大間々 千載連 東田舎下雅

挿入てかいたのあまのさきとひと色えぬ物ゆゑのさき  
一丁羽狩

七種の荷摘はふまゝゝりて種々のさる今物のもひ  
知部方頼

酒とまると人やりあへん梅物まゝのあやとひく物これお後  
鳴子綱彦

ゆり菊よこらりとり書物も曆れ文字もぬとき初ま  
若草末繁

今物ゆゑ難考の種のは口ふあきとてらき風の梅香  
霍岡舎有人

花とまをこ色色ハそれとつゝ種も物よかけのさきゆるき弱  
○ 下野 鹿沼 芙蓉連 山望亭安良

くりえと日記うり筆れえんくと種むけとほける名れまゐ  
○ 今 宇都宮 今 奥海堂宮住

庭つりりさつくりと色さゆりゝゝ京色ゆれ梅と咲ぬる  
春笑亭咲掛

うつりゆゑるも活生のみる水鶴舎せつと時と告り  
谷 雪 丸

唐人も麻えれとにゝやゆんゝ花の花と後ふたひめて  
雄々館平記

世活しとよもたてと招もゝ門の礼者ふまのほりも那  
旭亭赤根

清雪れ白粉水や口紅粉とふくを喜日れ梅のらとやひ  
粟 御膳

日のちりものひて嬉しやうと人海とらとさきとら初ま  
真白菴綿法師

さうのれわくのひとちりよ咲もらぬ小舎を色なる粟れ咲花  
崑崙舎黒人

咲梅のまを同いて山里よゆきこれ人の香をかりとま  
○ 時雨菴萱根

とつりあへるあれものよけ一陽春のゆりま喜りぬるのさき



萬歳連 竹葉守數

白濁とくまぬあつこれ古巻もとこれとありて川産の形

布嘉朝興

喜とれとほのけけきいあゝあのをひよやめる産まは

○ 全 小幡 則有 遊

舎人まて神よも葉と二葉三葉の相付とそはむも喜の形

全 山中 瓢亭百成

八重巻のちさかいつて喜れおにちとふひりて立てゆげや

附子盛兼

誠礎とてふの首のくふ田ふききうつめる黄代のはち

○ 常陸府中 霞陽菴浦人

五合れ日親とてふ喜の形は二分三分はくせりてふ喜

全 土師 身上持義

鳴梅れと喜も白く新葉より声たてとめる喜れ喜

全 完戸 右箸持兼

今船はとや白酒賣の形中へ海草よかむ喜れ山川

○ 上野 南谷連 息齋延命

喜を履ひけるとくぬの豆なりとめいと口ほにぬるあは喜

藍 染 見

口へはとて今船ハ原色ふみちのりやのくぬ浪れあは喜

田夫堂野人

形も色もまじりたりきふなりこれ初め喜とてあつと

邊田横月

輪味唱の志きり小白く梅り香ハくまをて紙て鼻よはらん

全 妙義 白雲連 山樺菴腰成

め初てたりの礼者も花の香もくひくほもく名の梅え

○ 全 藤丘 古笠雨守

依保眼のおとくゆふくしくと多いわくた喜れ心く

平井亭賤歌

帯れはげきよはけりる白香もつけて流る喜れ谷川

真字亭唐文

天れ戸のわくまてふれあつひろく海産れは喜もあは



画在人  
北舟画

全

松井田

弦掛并成

○全

沼田

世話内侍

ふかきまふも月此若かりて携ぬハ藤のなまきれつら  
春雪連束

榎分根

見ゆられと熟るの心此思さう借心言ふ小く花のうさよ  
俵杉成

○信濃

松本

小麥金罽

佐保那のおいてなうされともう人の目にし海の花のうほくを  
松蘿道

糸凡霍丸

下戸なりと屋つやとさういふつはと栴のやしくる教を  
坂上押則

巖苦也

繪あけとつらなりなりはうにむれさうおれ梅の香  
臺司基住

○全

伊勢 馬上仲則

手細子の梅もよ我の飯かうてり名めわさる花の香  
濯耳菴水音

○陸奥

桑折

木刀菴兼成

後中れ親書とさうすう喜れ日は天と作くさうく煙を  
笑信亭仲成

上水亭下見

凡れよよけはゆる窓の柳を梅をさうも吹のれてよき  
春此初のみうかす夜中しふなうさひ梅たのか海

東都

笹の屋厚丸

ひらききれおれと雲人のいらいりあひけり書習えん

若水汲子

吾風よ水へさげておひもさける柳れめをさやさき

絆筒長

書初れ梅といふ字の筆勢をどのあぐれ口とさして

耳露菴蜂滿

おちて仕わけさや一漏刻れれも喜もやふとこれ船

○出羽 采澤 白雪連

列良改 千歳松人

何せも酒はさく多うふさうかつつるもさてもも

玉帚菴上成

くら初れ雲の霞とかけぬけてかすい今船の暮れえ陳

醫家の入道

然れよおつちり石とつ知れ喜よひそりの出てとひら

後 軒列良

春の香何と見たてん花れなりとげよ西やとけつ流川

比羅雲墨

そ手香ももたらる梅れ雲のちとあめらつる鍵の子藤

御免齋綾丸

桜木の根よはつき一庭下結やふたてゆるめんあゆい

玉結菴藏滿

春もふもさるももさやかからり川春れ柳の糸の釣る

連葉菴春木

とふはまの石場繩よも初ま度ひついでたつ春れあけの

○陸奥 須加川

平方菴早樹

是もまのいろとさいさしてとめたあをれ喜見あをれ喜

川邊涼見

おしおて今船は難者れ後けみうらちさまり思心あ

鷺白羽

流儀はく蝶いふとあまりけてぬてのさやもつおおかりあり

幾世菴久門

七鏡越とやももか板かなひとあれも春れ喜の春ひさ

陸奥 相馬 中邑連

宇和空也

とうきふ子朝是とゆし出まをる衆衆のきいあふなり

突々法師

咲花の三番更なる梅う番とわかはやしし神あま

嘉世福也

いつとや十日れ面のやうてあもてつふあま

橋上涼風

大吹舟のなや白く吹出とあま

箕盤玉丸

やつとまきれまきあひわくれあま

千歳亭鶴菓

福喜草花の強さハ石草屋のつちとよりあま

長橋渡

百日をちてあま一九十九夜かひてもあま

千唐有武

あんとりふひハ風よむねのこりぬのあま

鹽美照

初先の友あやわしそちあまのあま

雲津高盛

まゆもあま下れまきあま

徐々菴春風

えても程々あまのあま

雲木菴宿成

とあまあまかあま

東仙堂花守

咲花よ神よりあま

蜻蛉樓延人

咲花れはさのかハ難波津の梅かあま

錢充樓望主

あまあまあまあま

遅路館鳥俊

おまつ船渡れあま

東都

李下齊東邑

和音さし音もまじりし思愛されあはれしけさきもあはれ口きし

芭屋星負

洞窟ふ今物いけとむる春なれやとくたのまゝのゆゑにけり

辛崎松元

初子ともとりげし深のさる霞引ても水鏡のゆほの

和氣吉丸

春の雅れふともあはれいしく兵部も春よあはれさし角の版

徳井笛安

かげらういさういさうてぬやのうらたひかきも春はる春

豊御代住

とらふ春もたまきの小形よあはれとあやかしのゆゑにあはれ

紀喜賀内

人いさかあふ物ふやとあはれあはれあはれとあはれ花のつら

龍岳亭苦成

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

碁経石盛

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

一笑徳成

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

夫鶯堂張兼

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

初夢鶯見

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

前川月満

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

桃林舎貞生

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

夏月齋始変

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

翫月菴岬山

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

尾張 熱田 超 歳 坊

暮風の音位て来る岩れ声よとちめて出る雪の音

柳 百 朶

天八此虚を吹とも暮れ風をささぐ門はつけてはすし用

芦 邊 潮 満

一もよ花れもやとくゆく船のせよよあり出も浦の梅香

堀 川 芳 香

さえのつる梅の錦入もあはれあはれきききききききき

○ 全 名古屋 北 亭 歌 政

めて今朝月の啼を近水や初日と伴く武蔵野のたもる

玉 章 菴 有 武

お朝のほもふほひ初の雪と梅や初とひひひひひひ

千 霍 菴 雛 人

あか初もよと初日れ初もあうりと梅の袋井紙てあつん

五 葉 舎 兼 赤

日とれまてあむむ花ふ初は初の音とあうりてとととと

○ 三 河 吉 田 豊 水 連 冬 雨 亭 友 茶

鼻紙れ初とゆとくくふも初もあうりてとととととと

新 玉 年 武

糸と初もふ初もあうりてとととととととととととと

豊 橋 橋 干 坊

鹽ともあうり初もあうり初もあうり初もあうり初もあうり

垣 元 帯 丸

一夜の音と初もあうり初もあうり初もあうり初もあうり

厩 戸 真 仲

娘ひとと初もあうり初もあうり初もあうり初もあうり

下 戸 餅 好

あうり初もあうり初もあうり初もあうり初もあうり

○ 伊 勢 四 日 市 真 草 菴 文 人

暮あうり初もあうり初もあうり初もあうり初もあうり

○ 全 桑 名 福 邊 菴 長 生

三多れ初もあうり初もあうり初もあうり初もあうり

陸奥 相馬 中邑連 結尾志丸

海とて底よるるもまのうらとやまきいまりゆとのうらとゆら  
櫻木亭皮人

三河  
めり朝のうびめれかどふりちよくらうらなりのこ日れ月  
庭柯菴連成

まら秋も今ふ春のあふ田よまきもあふせれ性なりあり  
十千亭道成

宇治山よひさるる陸ハ藤葉やとませんの人れ月やまきとらに  
文喜亭早雄

あまれ心さぬいのささこれなころひてゆりてまよえゆるる香  
浪上則連

妙の子もまきふ妙れ文字よ似てかきけとことくゆら下子  
朝倉菴三笑

まれあるもわと人のいひなうぬあまれ梅の葉のまき  
○ 東都 不二見連 能琴有竊

いそぬれ日和いふかともささる福と標あなうぬまらぬあ  
柳花菴春芳

あまらるる梅やもりてあまれえささう枝へけりささるひま  
柳向亭百傳

今月とらうみてあまらる葉屋の梅まらうらとや免ふがらん  
瓶子玉持

一外れ酒も徳利や者よいあぬのひふのささるれぬ花  
高根常雪

あまれ花よさへて入おのし梅とさけてもまきとあめさ  
紀儘成

須磨ぬる葉田むけてささるる梅ささるくさし地ささる  
百生比左百

なりあーあふ梅心ハ安房上松ふあさつらうて川を陸の如  
奈夏藏持

ささるるあまらるのささるるささるるささるるささるる  
青雲亭業文





鳥居  
北

一粒亭万盃

匪屈れを柳のひきつてのひやまつらん春のけしき

三河 三味 森好

小倉の花見ておもひわん小町さくらお人のぬれ

下館 五葉亭永樹

くみ我日喜れ日敷とさき著のさけいんやーなりむ

全 堪忍舎深記

後亦も休く一喜れさけいんさき著のさけいんやーなりむ

全 千箱玉廣

おーてるやなつあともぬれを村の花もはちのめとさき著

德意持方

常の初喜のけしきめつとさき著のさけいんやーなりむ

桐原駒彦

梅う枝も挿とさき著のさけいんやーなりむ

北陸堂道近

ちら書とさき著のさけいんやーなりむ

出世鯉人

喜れ海高帆も折帆も船風のさき著のさけいんやーなりむ

浅草例

田原常則

常のけしきよも折帆も船風のさき著のさけいんやーなりむ

東山堂敷良

喜來ても田舎産れ常のさき著のさけいんやーなりむ

浅葉菴音芳

田の面のあも枝とあひひ友風よさき著のさけいんやーなりむ

浅子亭市成

妙持のさき著のさけいんやーなりむ

浅縁菴春告

蒲雪のさき著のさけいんやーなりむ

浅呂菴牧廣

浅流菴清志

浅月堂春人

浅律菴永屯

六藏亭守舎

あやうらひさきき梅厩見れそのの初もやぬ老ら  
こ免らりよ船より声も鳴梅もこのハむしりておらる夕風  
今船はこや口よひやうときさころうや豊よ基のたつくり  
地もさかたの庭お珍くおん川よあやも柳れ松友  
あうち初よとむん唐菴れ海の名もやま老れ海あは

判者

千種菴

仁義堂

浅瀬菴

貢菴

桑揚菴

賢聖のまはかうひの殿の比れ面よかしてたつくり柳  
百れ日よ坊と全羽のともなきみらりめけ梅をたつぬ  
梅見乃回してされとおひけておほひのさきと知もころ風  
教といと小花れや波くまていりつといきけあまのつふ  
百歳れすまられ神ふとあはれてこまる物のハ名の梅香

浅草菴

あさしのやまうりはそれお梅あまてらあま言流らす

末廣菴

え日小先むふあん菴菴ハ喰つと暮とすはうかりるあを

書とめふ子もさかむいんりまの

そつれつとれはけりき

筆勢

享和癸亥春日

末廣菴藏板

